

基本目標Ⅲ

魅力づくり





Ⅲ-1

心通う旅に出会うまち

Ⅲ-2

「うちこ」の魅力を発信できるまち

Ⅲ-3

「内子らしさ」を守り育て、未来へつなぐまち

Ⅲ-1 心通う旅に出会うまち

【課題・基本方針】

本町は歴史的町並みや内子座、美しい農村景観や豊かな自然、手漉き和紙や和蠟燭に代表される伝統的な技など、数多くの観光資源を有しており、これらの観光資源を生かした観光振興に取り組んできました。その結果、重要伝統的建造物群保存地区である八日市・護国地区をはじめとして、多くの観光客で賑わう、愛媛県下でも有数の観光地としての地位を確立しました。

近年は、歴史的町並みや建造物、里山に見られる日本の原風景などが欧米豪インバウンドから注目され、来訪者は増加傾向にあります。また、愛媛と台湾や韓国を結ぶ直行便の運航再開などでアジア圏インバウンドも急激に増加している状況です。そのため、滞在型周遊観光を志向するインバウンド需要に対応した高付加価値な観光地づくりが急務となっており、町並み・村並み・山並みエリアが連携した周遊・動線づくりを行うことで周遊観光の促進を図るとともに、滞在型観光に向けた観光拠点の整備と機能強化に取り組めます。

また、本町は農業を基幹産業とする典型的な中山間地域である地域特性を生かし、グリーンツーリズムによる田舎体験や農家民泊を行っており、探求学習として都市部からの教育旅行も急増しています。さらに、アドベンチャーツーリズムなど観光ニーズの多様化も進んでおり、地域の自然やそこに暮らす人、食事や温泉といったあらゆる観光資源を五感で感じながら、楽しめるサイクルツーリズムやワーケーションなどの需要も高まっています。住民との出会いやマニュアル化されていない住民の気遣いは、来訪者の心に響き、リピーターの獲得にもつながります。今後もリピーター獲得に向け、本町固有の歴史・文化資源と物語性を生かしたオンリーワンの観光を推進します。

1970年代より、本町はきらりと光るエコロジータウン内子のキャッチフレーズのもと環境に配慮したまちづくりを展開していますが、観光面においても、現在及び将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する「持続可能な観光」の取組をスタートさせました。先人の時代から今も守られている「文化景観・環境」や「まちづくり」を維持するための観光の担い手などの人材の育成を行うことが不可欠となっているため、「日本版持続可能な観光ガイドライン（以下、「JSTS-D」という。）に沿った取組を（一社）内子町観光協会や事業者団体、住民を巻き込んで進め、安心安全な観光地として心通う旅が実感できる「ただいまが言えるまち」を目指します。

【主な取組】

(1) 周遊観光の促進と新たな観光資源の発掘

- 観光閑散期等に対応する観光資源の検討・発掘を行います。
- 内子座休館中の活用議論を活性化させるとともに、代替資源の発掘に取り組みます。
- 二次交通対策として、レンタサイクルや E バイクの活用促進に引き続き取り組むとともに、カーシェアリングなどの利用促進と利便性の向上に取り組めます。

関連事業：周遊観光の促進／二次交通強化に向けた検討と連携 ほか

(2) 観光拠点と機能強化

- 情報・交通の要所として、JR 内子駅周辺の機能強化に努めます。
- 五十崎地区の拠点である風博物館の魅力を高め、集客力向上を目指します。
- 小田深山エリアの観光拠点として、小田深山溪谷周辺の拠点施設及び情報通信の整備を行い、スキー場や宿泊施設、民間施設との相乗効果を高め、小田深山ファンの獲得と交流人口の拡大を図ります。
- 内子町移住体験交流施設等による企業と連携したテレワーク推進、宿泊による田舎暮らし体験を提供し、関係人口の創出や地域の活性化を図ります。
- 道の駅等と連携した情報拠点整備を行います。

関連事業：町内観光拠点の整備と機能強化／有効な観光地情報提供体制の検討 ほか



▲ 新たな企画で来場者を楽しませる
五十崎風博物館

◀ 小田深山の自然を満喫できる
ネイチャーキャンプ

(3)安心安全な観光地づくり

- 観光関連事業者や地域住民に対するインバウンド対応の理解促進に取り組みます。
- 災害発生時の観光客対応の明確化に取り組みます。
- 既存の観光資源のDX化により、利便性の向上やユニバーサル対応の充実を目指します。

関連事業：外国語対応の強化／災害発生時の対応明確化／観光資源のDX化 ほか

(4)持続可能な観光の取組

- 旅行者の意見を調査し、調査結果に基づいた、旅行者満足度向上のための対策を講じます。
- 住民や事業者等と連携し、JSTS-Dに沿った取組を行います。
- 観光消費額を調査・公表し、経済波及効果の拡大に取り組みます。
- グリーンツーリズムのさらなる推進を図るため、教育旅行の受け入れ環境整備など農村での観光交流を支援します。
- 匠づくり奨励金など観光に携わる産業の担い手育成支援事業の拡充を行います。
- 交流人口獲得に向けワーケーションや農業・伝統文化等の体験活動による体験価値の向上に取り組みます。
- 効果的な事業展開を図るため、地域おこし協力隊などの外部人材を積極的に受け入れます。

関連事業：JSTS-Dの推進／グリーンツーリズムの推進／産業の担い手育成支援事業 ほか



◀ 海外の方にも評価の高い町内を
めぐるサイクリング

各地で楽しめる四季折々の
「内子らしい」風景 ▶



【重要業績評価指標】

指標の名称	現状値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 11 年度)
レンタサイクルの貸出人数（単年度）	1,043 人	2,000 人
カーシェア（レンタカー）のステーション数	0 カ所	3 カ所
五十崎風博物館の入館者数（単年度）	1,367 人	5,000 人
小田深山エリア来場者数 （スキー場・溪谷等）（単年度）	30,000 人	50,000 人
内子町防災計画での観光客対応の明文化	0 記載	1 記載以上
観光客満足度調査(日本人) （マーケティング調査の N P S 結果）	日本人 23.5	日本人 24.0
観光客満足度調査(外国人) （マーケティング調査の N P S 結果）	外国人 42.8	外国人 43.0
総観光消費額（単年度）	1,253 百万円	3,347 百万円

【SDGs 17 の目標との関係性】

目標	考え方	目標	考え方
 8 働きがいも 経済成長も	観光産業の成長の支援	 15 陸の豊かさも 守ろう	環境に配慮した二次交通の整備
 9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	安全な観光地づくりと観光産業の成長支援	 16 平和と公正を すべての人に	来訪者と住民両者が安心できる観光地づくりの推進
 10 人や国の不平等 をなくそう	誰もが安心して訪れることができる観光地づくりの推進	 17 パートナシップで 目標を達成しよう	SDGs を意識した取組の推進
 11 住み続けられる まちづくりを	地域資源を生かした持続可能な観光地づくりの推進		

Ⅲ-2 「うちこ」の魅力を発信できるまち

【課題・基本方針】

本町が魅力的な観光地として多くの人に認知してもらうためのプロモーションは、旅行者の旅行決定プロセスを把握した上で行うことが重要です。それを踏まえて、旅行者の行動を「旅マエ（旅行前）」、「旅ナカ（旅行中）」、「旅アト（旅行後）」のプロセスに区分し、それぞれのプロセスに応じた効果的な誘客プロモーションを行います。

旅マエでは、来訪につなげるきっかけとして、SEO（Search Engine Optimization「検索エンジンの最適化」をいう。）対策を行うとともに、観光マーケティング調査から得られた結果を生かし、（一社）内子町観光協会と連携して内子町公式観光サイト・公式インスタグラム等で、イベントの開催や桜の開花状況など多彩な観光情報をタイムリーかつ効果的に発信していきます。また、海外に対しては広域的な情報発信が不可欠なことから、関係するDMOや他自治体、姉妹都市等と連携したプロモーションを行います。

旅ナカでは、SNS上の口コミなどの情報が旅行者の行動に影響を与える実情を踏まえ、デジタルツールの有効活用や観光関連事業者へ情報発信セミナー等を実施し、旅ナカで得られる観光情報や店舗情報の充実を図ります。また、観光客が旅ナカで有益な情報を得られることは、満足度を向上させ、リピーター獲得につながることから、地域住民や観光客が自ら観光情報を発信できる仕組みの構築についても検討していきます。

旅アトは、観光客が旅行の思い出をSNSに投稿したり、口コミで広げたり、気に入った商品をECサイトで購入したりして、旅行の余韻に浸る期間といわれています。そのため、来訪者をリピーターにつなげるためのフォローや関係性の構築を意識した旅アトプロモーションの強化に取り組むとともに、内子町観光公式サイト等の充実を図り、リピーターの獲得や関係人口の拡大につなげていきます。

インバウンドに対しては、内子の観光素材を生かせる「日本の文化や歴史、大自然に興味がある層」をターゲットとし、欧米豪を代表とする2泊以上の連泊が期待されるインバウンドを今後のメインターゲットとします。さらに、松山空港を利用するアジア圏からのインバウンドをターゲットとします。特に、英語圏のインバウンドには「日本らしい」、「そこにしかない」、「共感できるストーリー」、「社会貢献」などが響くとされ、内子のコンテンツが効果的に伝わるプロモーションを行います。

本町は、景観だけでなく、そこに暮らす人こそがその魅力を引き立てており、強みとなっています。一人一人の顔が見え、「ただいまが言えるまち」として共感を得られるよう情報発信を行います。

【主な取組】

(1)観光マーケティング調査・分析とその結果に基づく効果的な情報発信の実施

- 旅マエ・旅ナカ・旅アトに合わせた効果的な誘客プロモーションを行います。
- 英語圏のインバウンド客は、「日本らしい」、「内子にしかない」、「共感できるストーリー」などが響くとされるため、内子のコンテンツが効果的に伝わるプロモーションを行います。
- 地域住民や観光客が自ら観光情報を発信できる仕組みの構築を検討します。

関連事業：効果的なプロモーションの実施／住民や観光客が情報発信できるプロセスの検討 ほか

(2)観光関連団体や企業、他自治体との連携

- 海外へのプロモーションに向けて、愛媛県や近隣市町、DMO 組織等との連携による広域的な PR を行います。
- SNS を活用した戦略的 PR を行います。
- 宜野座村やローテンプルク市と連携した情報発信により、国内外への PR を図ります。

関連事業：広域的な連携による PR の検討 ほか

【重要業績評価指標】

指標の名称	現状値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 11 年度)
w e b サイト（内子さんぽ）のアクセス数 (単年度)	198,852 回	300,000 回
w e b サイト（uchikogenic）のアクセス数 (単年度)	85,423 回	130,000 回
DMO 等と連携したマーケット（商談会等）への 発信（単年度）	1 件	5 件

【SDGs 17 の目標との関係性】

目標	考え方	目標	考え方
 8 働きがいも 経済成長も	観光産業の成長の支援	 11 住み続けられる まちづくりを	地域資源を生かした持続可能な観光情報の発信
 9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	新たな技術を活用した観光 プロモーションの推進	 17 パートナリシップで 目標を達成しよう	SDGs を意識した取組の推進

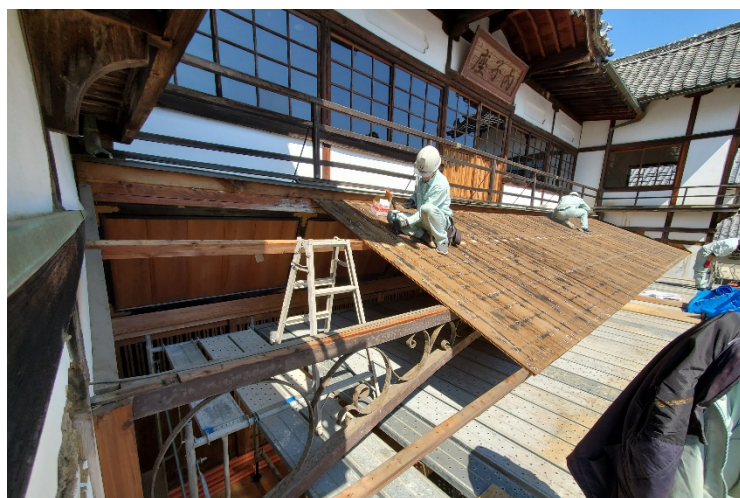
Ⅲ-3 「内子らしさ」を守り育て、未来へつなぐまち

【課題・基本方針】

「内子らしさ」を形作る最たるものが歴史的資源です。歴史的資源とは、文化財やそれにかかわる環境を背景に人々の営みの中で生まれたモノやコト、風景や人物などであり、そこに住む人々が誇りに思い、受け継いできたもの、未来に残していきたいと願うものです。内子町では町並み保存を契機に美しい景観づくりや歴史的資源の保存活用に取り組んできました。今なぜ歴史的資源が大切なのか。もしこれらが失われた場合は「内子らしさ」の喪失につながります。それでも住み続けたい、訪れたいと思うまちであり続けられるでしょうか。内子町に残る歴史的資源は、他の地域との差別化を図るために発掘し磨いていくべき「魅力」あるいは「武器」の一つとなりうるものです。

一方で歴史的資源の保存活用に対する住民の認知・理解は限定的で十分には進んでいません。また歴史的資源を守る技術者や行事の担い手なども少子高齢化等により不足しています。これらの課題を解決するためには、歴史的資源だけではなく、その周辺の市街地や農地が一体となりまちづくりに生かされる必要があります。基礎となる学芸活動の円滑な推進も重要です。

今後は庁内体制を見直し、横断的な取組で景観保存や歴史的風致の維持向上に努め、併せて技術継承者の育成、文化芸術等の推進、歴史まちづくりの機運醸成を図ります。こういった取組を継続することで若い世代にも「内子らしさ」に誇りをもってもらい、「内子らしさ」を守り育てるために、住み続けたいと思えるようなまちを目指します。



◀ 次代へ継承するべく保存修理事業の進む重要文化財内子座

各地域に、歴史を物語り、日々の営みがつくる美しい景観が残る ▶



【主な取組】

(1)町並み保存をはじめとする景観・歴史的風致の維持向上

- 内子町の景観・歴史的風致に関する学びの場を設け、その価値を再認識し美しい景観形成についての理解促進を図ります。
- 歴史的建造物の建物調査等を行い「内子らしさ」への理解を深めることで、豊富な資源をさらに磨きます。
- 重要文化財内子座の保存修理事業や伝統的建造物群保存地区保存修理事業等、歴史的建造物の保存活用事業に取り組みます。
- 歴史的風致維持向上計画推進協議会等を開催し、各課が協力して進捗評価や事業間調整を行うことで、横断的な事業推進に努めます。
- 文化財に特化した内子町文化財保存活用地域計画を策定し、歴史的風致維持向上計画と合わせ「内子らしさ」の価値継承を図ります。
- 中世城館跡など土地に埋蔵されている文化遺産を解明できるよう、町内の遺跡調査を進めます。

関連事業：景観まちづくり計画の推進／歴史的風致維持向上計画の推進／文化財指定・登録の推進／内子座保存修理事業／歴史的建造物の建物調査の推進 ほか

(2)歴史的資源を支える担い手の支援・確保

- 伝統的建造物の保存修理に関わる職人などの技術継承者の育成・確保の支援を行います。また、県内の伝統建造物群保存地区等との情報共有等連携を図ります。
- 八日市護国町並保存会などの歴史的資源を支える団体やその活動に対する支援を行います。
- 伝統行事等の継承や担い手確保の支援のため、大学との連携や外部人材の活用を図ります。
- 学芸サポーターを育成し、歴史的資源の調査・活用を積極的に行います。
- 町誌編纂事業から続く歴史文化の啓発講座「ふるさと学のススメ」を企画し、歴史的資源を支える担い手育成の機会を提供します。

関連事業：学芸サポーター育成事業／郷土講座「ふるさと学のススメ」の開催／担い手確保に向けた支援 ほか



子どもたちへつながる伝統文化



受け継がれる伝統産業

(3)文化芸術等の推進

- 「内子町文化芸術推進基本計画」に基づく文化芸術の推進に取り組みます。
- 内子座以外での文化芸術事業の積極的な実施や、文化芸術の発表機会、体験機会の創出及び新たな層に文化芸術に触れてもらうための取組を実施します。
- 内子町伝統文化継承団体連絡会を母体に、未指定も含む無形民俗文化財の保護・継承を図ります。
- 内子座文楽など全国の内子座ファンを取り込む文化芸術等の企画を試み実施します。
- 歴史的資源を活用したアートに着目した取組を検討します。

関連事業：内子座文楽関連行事の開催／内子町文化創造事業実行委員会との連携事業の実施 ほか

(4)歴史を生かしたまちづくり推進のための拠点・体制づくり

- 古民家を改修した歴史まちづくり拠点等の整備を推進します。
- 「内子らしさ」の発信拠点となる町内博物館（資料館）の再整備について検討します。
- 歴史まちづくり推進のための庁内体制を整備し、情報共有の緊密化や専門家によるサポート体制の構築を進めます。
- デジタルアーカイブ化した歴史的資料を公開するためのプラットフォームづくりに取り組みます。

関連事業：旧森家住宅の整備・活用／庁内専門課の立ち上げ検討 ほか

(5)歴史資料・資源の調査と公開・活用の促進

- 資料のデジタルアーカイブ化による活用を促進し、学校で活用できる教材づくりや、観光・商業活動などへの資料・情報提供に加え、大学生や研究者の研究成果等も収集・公開する仕組みを作ります。
- 増加する調査・保存を要する資料や案件への対応・収蔵方法を検討します。
- 歴史を生かしたまちづくり活動に住民の参画を促進するため、展示や講座などの普及活動の継続と効果的な情報発信に加え、関わり方の選択肢を増やすための取組を検討します。

関連事業：町内博物館（資料館）の再整備／資料のデジタルアーカイブ化／内子町デジタルミュージアムの公開／住民を巻き込んだまちづくり活動の検討 ほか

【重要業績評価指標】

指標の名称	現状値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 11 年度)
内子町文化財保存活用地域計画策定	未着手	策定
伝建地区内の修理・修景事業の推進（累計）	13 件	80 件
景観まちづくりフォーラムの開催（単年度）	1 回	1 回
学芸サポーター数の増加（累計）	21 人	50 人
歴史資料のデジタルアーカイブ化（単年度）	100 点	100 点

【SDGs 17 の目標との関係性】

目標	考え方	目標	考え方
 4 質の高い教育を みんなに	地域の歴史文化等を生涯にわたって学べる機会の提供	 12 つくる責任 つかう責任	自然や環境と調和した暮らしや風景づくりの促進
 8 働きがいも 経済成長も	バランスの取れた資源の保存と活用の促進	 15 陸の豊かさも 守ろう	地域の自然、生物、文化の滅失の防止
 9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	歴史資料・資源のデジタル化等による情報発信の充実	 17 パートナリシップで 目標を達成しよう	SDGs を意識した取組の推進
 11 住み続けられる まちづくりを	伝え守りたい文化遺産、自然遺産の保護促進		



子どもたちが地域の歴史に触れる体験学習



伝統的な建築の技術の高さと先人の知恵を体感する三和土づくり